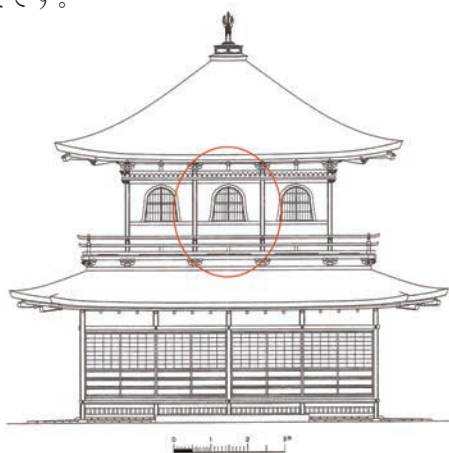


慈照寺観音殿(銀閣)の実物大復元模型(一部)の製作および寄贈

伝統建築部門総括部長 中尾 正治

いわゆる銀閣は、金閣、銀閣、飛雲閣と数えられる「京の三閣」の一つです。鹿苑寺舍利殿（金閣）は1950年に焼失して1955年再建されましたが、東の慈照寺観音殿（銀閣）は長享3（1489）年上棟後間もなく竣工した創建当時の姿をそのままに現在まで伝える貴重な文化財です。この通称銀閣は、2008年から2010年の大修理に伴う調査により楼閣2階が内外とも黒漆塗り、軒裏、頭貫、斗栱などの主要部材が華麗に彩色されていたことが判明しました（下図参照）。国宝観音殿（銀閣）は経年による枯淡な雰囲気を保存して修理を完成しました。しかしその創建当時の形姿の片鱗を修理工事中の調査結果に基づいて復元的に彩色してこれを一般に公開することは、世界各地から慈照寺にお参りに来られる方々に文化財の保護と啓発及び歴史の息遣いを感じさせる建築技法などをご理解頂ける一助になると考え、引いては建築文化向上発展にも寄与すると考え、慈照寺のご承諾、ご協力を得て建築研究協会にて2階東面中央部分一柱間の模型を作成し、慈照寺に贈呈したところ、拝観者が必ず訪れ銀閣がすぐ傍に見られる場所に設置して頂きました。因みに鹿苑寺、慈照寺は、1994年にユネスコ世界遺産（文化遺産）に登録された「古都京都の文化財」の構成資産です。



観音殿（銀閣）東立面図
○印の部分をも型化した



実物大模型全景（製作中）



軒廻り復元彩色詳細

模型製作指導監修	(一財)建築研究協会
漆塗り工事	(有)川面美術研究所
彩色工事	〃
木工工事	(株)北村誠工務店
覆屋工事	〃